

氏名	今 滝 健 介		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1693 号		
学位授与の日付	昭和61年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	体表面心臓電位図に関する研究 第一編 右室肥大（収縮期負荷）の実験的検討 第二編 右室負荷疾患の臨床的検討		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 木村郁郎	教授 寺本 滋

学位論文内容の要旨

第一編では、体表面電位図（電位図）を用い、右室圧負荷に伴う右室の求心性肥大の定量的評価の可能性を実験的に検討する目的で犬に肺動脈絞扼術を施行し慢性右室圧負荷を作成した。そして右室肥大の経時的進展に伴う電位図変化を観察した。その結果、QRSの陽性最大電位は術後前胸部から下部にかけて有意に増大し、QRSの最大陰性電位も左背部上方で有意に深くなった。電位図より算出した ΔR_{max} ratioは、RV/LV weight ratio と正の相関を示し、電位図により、右室の求心性肥大を定量的に評価し得るものと考えられた。

第二編では、電位図を用い、右室負荷疾患例について臨床的に右室負荷疾患の血行動態的差異を定量的指標により判別しうるか否かについて検討した。その結果電位図より得た定量的指標である $R_{max} \cdot V(F4)$ 、 $S_{max} \cdot V(13)$ 及びQRS interval の3指標を用いて右室圧負荷群、右室容量負荷群、右室容量負荷及び圧負荷の3群の判別を判別関数を用いてかなり高率（74.4%）に為し得た。

論文審査の結果の要旨

本研究は第一編では、体表面電位図（電位図）を用い、右室圧負荷に伴う右室の求心性肥大の定量的評価の可能性を実験的に検討する目的で犬に肺動脈絞扼術を施行し慢性右室圧負荷を作成して検討した結果、電位図により、右室の求心性肥大を定量的に評価し得ることを明らかにした。さらに第二編では、電位図を用い、右室負荷疾患例について臨床的に右室負荷疾患の血行動態的差異を定量的指標により判別しうるか否かについて検討した結果かなり高率（74.4%）に可能であるという成績を得た。これらは臨床的にも有意義の業績であり、よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。